

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 産業文化研究センター運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 事務局教務課 電話番号：0584-75-6600(内 8223)

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,200千円(前年度予算額3,200千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,200	0	0	0	0	0	0	0	3,200
要求額	3,200	0	0	0	0	0	0	0	3,200
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

産業文化研究センター(RCIC)は、大学院大学の対外的活動拠点として機能している。特に、学部を有しない大学院大学においては、附置研究機関として産業界や地域社会とのインターフェイスとして重要な位置を占める。

本学の産学連携拠点、イノベーション創出拠点としての情報発信の中心として機能させる。

(2) 事業内容

IAMASが、県内外の産業や地域社会に向けたイノベーション創出拠点として機能していくためには、産業文化研究センター(RCIC)を中心とした、産官学連携、地域交流・地域連携、人材育成、イベント開催、情報発信等の活動が重要。

民間企業との共同研究や新商品開発等の連携事業など産官学連携を推進するとともに、地域連携による取り組みと情報発信・イベント開催等を進めていく。

合わせて、本学の様々な活動のアーカイブにも取り組む。

< R C I C の主な機能 >

○地域・産業連携、マッチング機能

- ・学内シーズの管理と産業界、地域社会への情報提供、産官学連携調整・マッチング、公開講座の開催、卒業生ネットワークの活用等連携促進

○ミュージアム機能

- ・本学を広く P R し、教育研究活動の成果を披露する場である各種イベントの運営管理
※岐阜県美術館等と連携したイベント開催、各種展示会、オープンハウス、卒業制作展等の運営管理を予定

○アーカイブ機能

- ・本学のイベントや、産官学連携の取り組み、研究成果等のデータ収集と保存とともに、web 等を活用した公表等、アーカイブデータの積極活用。

○出版機能

- ・主に広報（P R）を目的としたパンフ、チラシ類の作成、デザイン支援

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,228	公開講座、ワークショップ等講師謝礼等
旅費	162	業務旅費
需用費	1,137	イベント（ワークショップ、展覧会等）消耗品
役務費	28	資料等送料
委託料	400	ウェブページデザイン委託
使用料賃借料	245	資料等編集ソフト使用料
合計	3,200	

決定額の考え方

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本学と産業・地域社会とのインターフェイス機能として、産官学連携や各種イベント運営など情報収集・発信機能を担い、IAMASをイノベーション創出拠点として機能させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

附置研究機関として、本学の活動の基礎的運営を担っており、定量的な目標の達成を目的とした取り組みを行う機関ではないため。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- ・本学開催イベントの運営管理（岐阜おおがきビエンナーレ 2019 等）
- ・情報収集と発信、産官学連携情報の学内への提供
- ・PRパンフ、チラシ、カタログ等資料の作成、Webサイトの維持管理
- ・企業との情報交換（窓口機能）、共同研究等実施の取り組み、外部資金獲得支援、その他学内運営総合調整

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

- ・岐阜おおがきビエンナーレ 2019 の開催
- ・産官学連携に向けた情報収集による共同研究の実現
- ・産学連携の取り組みによる新製品の開発

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のニーズに沿った教育研究の取り組みと、研究成果の学外への還元とが地域産業、地域社会から求められており、R C I Cによる情報収集・発信機能が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外への情報発信により、地域産業・市町村等と連携した取り組みが増加するなど、県内での知名度が十分ではない本学の取り組みを広くPRしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントにおける高い能力を必要とする会場設営や運営管理、デザイン支援など、外部委託すべき業務を内部処理できるなど、附置研究機関の活用による本学運営の効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>人員配置が十分ではないことから、企業等から寄せられるニーズに対し、対応できないケースがある。また、多くのイベントが予定されていることから、本学研究成果のアーカイブや学外、地域に向けた活動成果の発信等の業務が滞りがちである。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>本学が地域のイノベーション創出拠点として機能していくためにはR C I Cによる情報収集発信機能は必要不可欠であり、より一層の機能の拡大と活動範囲の拡大を推進し、学内外をつなぐインターフェイスとして機能させる。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	